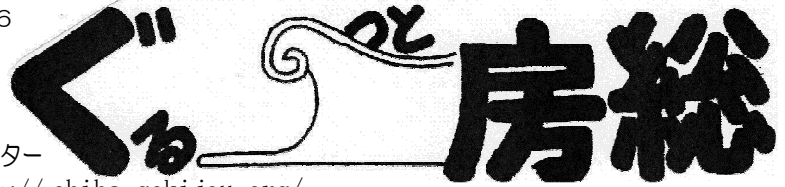


〒260-0031 千葉県千葉市中央区新千葉2-17-6
サンコート新千葉102号
E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp
TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263
発行責任者：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター
2014年7月10日発行 第73号 1部100円 <http://chiba.gekijou.org/>



全ての議案が全会一致・賛成多数で承認されました！

2年間の方針

二〇一四年度通常総会終える

寄付者の層を拡げ寄付獲得にチャレンジ



いじめ、児童への虐待、子どもの貧困が社会問題として高まる中、それらを未然に防止し、子どもが、育つ環境に左右されないで安心できる文化的な環境づくりをします。そのためにも、子どもや養育者の実態をリアルにつかみ、整理して地域課題とし、団体正会員と共有して、事業に活かします。また、地域や社会に共感を得るよう発信し、理解者を拡げ、応援者を獲得します。

■事業で実現する具体的な生活文化環境づくり

- ① 千葉県内の子どもたちのために、文化庁 文化芸術による子供の育成事業」に再チャレンジします。
- ② 更なるエクセレントNPOをめざし、活動をわかりやすく見えるように発信し、アクティブな行動で理解者・応援者を獲得します
- ③ 民が民を支えるファンド 千葉のWA！地域づくり基金」と連携・活用しきめ細かな戦略で支援者を増やしていきます。
- ④ 団体正会員と連携し実践的学びの場をつくり、子どもと文化を支える人材を増やします
- ⑤ 子どもの権利条約の精神を推進し、県内、全国の子ども系NPO、行政等との連携、協働をしていきます。

■2014年度事業計画

- 1 基盤整備事業
- 2 はじめてのおしばい
- 3 子どもの舞台芸術体験ひろば2014
- 4 病気と向き合う子どもが笑顔になる贈り物事業
- 5 チャイルドライン千葉」の開設
- 6 ママパライオンちば」の開設
- 7 子どもNPOのリーダー研修
- 8 傾聴の文化を拡げる講座
- 9 情報紙「ぐるると房総」発行

2014年度通常総会
 日時：2014年6月12日(木)
 13:30~15:30
 会場：千葉市民会館特別会議室
 出席：正会員総数52人(うち出席44人
 委任状8人)
 お客様：西織哲大さん
 (県民生活・文化課 副課長)
 嶋村仁志さん
 (Tokyoplay 代表)

認定NPO法人制度の改悪阻止&改正を求める
署名賛同へのお願い 2014年5月28日

この4月政府税制調査会が「租税特別措置法」の全面見直し・廃止・縮小の方向性を打ち出しました。この検討事項として、認定NPO法人制度の税制優遇措置である、1)みなし寄付金、2)企業の寄付金損金算入特別枠、の2つが見直しの対象として挙げられています。また、これとは別に、与党では、平成26年度税制改正大綱(平成25年12月12日)の検討事項として、寄付金税制における税額控除制度の再検討をも打ち出しています。これら3つのメリットは、認定NPO法人の税制優遇措置の中核ともいえます。

こうした状況を受けて、シーズでは、「**NPO法人制度・税制に関する要望書**」に改悪阻止、改正を求める内容をまとめました。NPO・市民活動が市民により支えられ、豊かな市民社会を実現するには、今回の改悪阻止とNPO法改正は非常に重要です。各地でNPO活動に取り組まれている皆様に、ぜひこの署名に協力いただけますよう、お願い申し上げます。

特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会

以下フォームからご賛同下さい
<https://pro.form-mailer.jp/fms/a49a2ad359522>

NPO速報

認定NPO法人の税制が大幅に改正されてまだ3年
認定NPO法人制度の税制優遇措置が、
全面見直し・廃止・縮小の危機！

認定NPO:628

認定NPO法人税制上の4大メリット

- ①個人の寄付が税金から控除(所得控除or税額控除)
- ②法人の寄付金が損金として計上(特別枠あり)
- ③個人の相続財産を寄付した時、非課税扱い
- ④NPO法人の収益事業が一定条件で減税(みなし寄付金)

このままでは、認定NPO法人制度の4大メリットのうちの3つのメリットが後退してしまうかもしれないという事態を受けて、シーズが5月29日から賛同署名を呼びかけました。賛同は主にウェブサイトを通じて行い、第1回取りまとめの6月17日までの約2週間で、全国の認定NPO法人、仮認定NPO法人・NPO法人 433法人からの賛同が集まりました。6月18日、要望書をNPO協議会へ、また内閣府にも届けました。署名は11月まで継続。NPOの力を結集しましょう！

要望書をNPO協議会に提出

「子どもたちの遊ぶ環境は今」

～子どもの権利条約第31条ジェネラルコメントから学ぶ～

I PA (子どもの遊ぶ権利のための国際協会) は、1961年に設立されたユネスコ・国連社会経済理事会の諮問機関の資格をもつ国際NGOで、世界中の実践者・研究者・支援組織・政府関係者などが集まって、子どものあそび権利を促進しています。

「ジェネラルコメントNo.17 (以下GC17 と略す) は、I PAが '08年から行ってきたロビー活動と専門家会議から、子どもの権利委員会に提出した報告書を元に、'13年、子どもの権利条約に関する17番目の解説書として発表されたことから、こう呼ばれます。「要するに第31条の取り扱い説明書(略してトリセツ)ですよ!」の嶋村さんの言葉に、一気に会場の雰囲気が高まると、参加者一同その意義、内容、子どもたちのためにどう使っていくか、興味シンシンで、自分に引き寄せて、考え始めました。

6月12日 木
千葉市民会館
参加者 94人



子どもの遊びの阻害要因を調査する世界会議」を開催。GC17ができた

第31条は「忘れられた条文」と言われているくらい報告書が少ない。よくわからない」という政府関係者も多く、より深刻な課題の後回しにされがちなのが31条だ。I PAとしては、「権利」という言葉を使わないで権利を語れないか、振りかざすだけでは世の中は変わらないから

「子どものごころ」と言い換えたならもっとわかりやすいか、身近になるか等々議論をしながら、条文を推進するためのジェネラルコメント 報告の義務、載せるべき具体的な情報、内容の分析や正式な解釈、課題、報告書の不備、手つぎの改善などが盛り込まれている)を是非とも具体化したかった。

国連でロビー活動を行う中で、バーナード・ファン・リーア財団(石油を運ぶドラム缶をつくる会社の財団)に「子どもの遊びの阻害要因を調査する世界会議」の提案したところ幸いに採択され、世界専門家会議が開催できた。

まず、7つの国際NGOが共同署名し、意見交換会をオランダで開いた。8カ国で世界専門家会議を開催(平成10年1月～6月)→報告書を子どもの権利委員会に提出(同年7月)→子どもの権利委員会がジェネラルコメント作成を通知(平成11年2月)→GC17が発表された(平成13年4月)

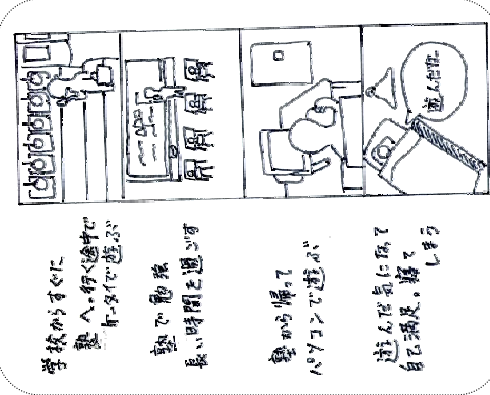
改めて、第31条は「子どもが、生まれながらに、だれもがもっている、もともとある権利」と捉えたい

世界各地の専門家会議に出された「子どもの遊び」の課題は・・・

- ◇「遊び」という概念が社会を構成する概念の中に入っていない(ハンバイベルト)
- ◇子どもが遊ぶことに否定的な地域社会がある(東京・ベルト)
- ◇ぬいぐるみやサッカーボールにみせかけた地雷が置いてあることがあり、公園で遊べない(ベルト)
- ◇誘拐の心配があるので、都市部では子どもは外で遊べない(ケニア)
- ◇季節労働者は生きられる最低限の空間で生活しているの、危険な場所で遊ぶ(ベンゴシ)
- ◇女の子は家事や制約があるため遊べない(ハンバイ・ナイロビ)

日本では子どもたちが4コマ漫画で課題を表現した。分析すると・・・

- ① おとなによつて用意された中で遊んでいる。子どもから生まれた自由な



子どもが描いた遊びのイメージ

- 遊びが消えている。遊び方を否定される例(「ちゃんとあそばせたい」とおとなが思う傾向)
- ②メディアが過剰である(テレビ・ゲーム機・スマホ・・・)
- ③過剰な管理責任がある(事故が起こると撤去)
- ④貧困(片親で夜仕事に行き、お金もくは人もなく、夜半ユーチューブをみて学校にも行かない)
- ⑤勉強時間が多すぎる(塾に行きかけにケータイクであそぶ 親による勉強へのプレッシャー)

世界専門家会議で挙がった115項目の「子どもの遊び環境を阻害する要因」を14にまとめ、I PAは子どもの権利委員会に参加し、説明した。委員会は、子どもたちに読んでもらい、子どもたちの声をきいて発表した。14の要因とは・・・

- ①遊びの重要性についての大人の認識の欠如
- ②危険な環境
- ③保護者の不安
- ④国や地方政府に政策が不十分が存在しない
- ⑤遊ぶ場所や施設が不十分
- ⑥訴訟への懸念
- ⑦学業成績への過剰なプレッシャー
- ⑧学校における認識や設備の欠如
- ⑨型にはまり、プログラム化された自由時間
- ⑩子どもの遊びのハイテク化と商業化
- ⑪施設での生活
- ⑫排除・差別・隔離・排斥
- ⑬貧困と生存競争
- ⑭児童労働と搾取

GC17では第31条の実現において対処すべき課題」(33~53)として、具体的に、かつリアルに世界の子どもが置かれている状況が表現されている。GC17は、目次を見て、読みたいところから読んでみよう！

例えば(Ⓐ)休息 (rest) (B) 余暇 (leisure) (C) 遊び (play) の権利はそれぞれ法的に定義されている。そして、諸権利を実現するための環境づくり、更に、特別な注意を必要とする子どもたちへの包括的なとりくみが義務づけられている。

GC17では、第31条第2項で抜けていた「遊ぶ権利」が初めて加えられることになった。解説すると・・・

☆遊びは、子どもが自分の意思で始め、動かし、つくることができるすべての行動、活動またはプロセス

★遊びは、自分のためにするもので、他人や外から与えられた目的や到達点のための手段ではない

☆身体や感情、社会性、精神的発達の要素であり、子ども時代の生命の広がりを持つ喜びである

★大人から与えられた、創造性やリーダーシップ、チームスピリットを育てるなど、大人のつこうが入ると、子どもの積み重ねは損なわれ、遊ぶ意味は失われる。

☆大人が用意したプログラムが取り上げられがちで子どもだけの時間や空間という環境は扱われない

嶋村さん曰く「ジェネラルコメントは要するに“トリセツ”ですよ！」
GC17って何?と聞かれたら、これを伝えたいね!

- 嶋村仁志さんプロフィール
- 1995 英国にて7~9ヶ年高等教育終了
- 1996- 冒険遊び場にて常勤7~レジャー-となる
- 2003- 日本冒険遊び場づくり協会理事
- 2005-11 I P A 東アジア副代表

どうやってGC17を自分に引き寄せ、考え、使っていけばよいのだろうか?

- ・GC17のための勉強会を開く。
- ・阻害要因を解消する方法を考える。
- ・わかりやすい冊子や広報をつくる。
- ・今やっていることを照らし合わせ、合っているもの、足りないものを見直す。

できそうなことをアイデア集にまとめ、公園関係、ユニバーサルデザイン、自治体における計画策定、学校、子どもに関わる専門職の人に働きかけよう!

● 子どもの権利条約31条

すべての子どもには、休息、余暇、遊びの権利があり、年齢に応じてレクリエーションを楽しみ、文化的、芸術的活動に自由に参加する権利がある。

条約締結国は、子どものこれらの権利を尊重し、どの子どもも文化的、芸術的活動やレクリエーション活動、レジャー活動に参加できるように環境を整えなければならない。

私たちのGC17ワークショップ

条文 33~53 は対処すべき課題である。講演会では、気になったところ、好きなところを一つ選んで、周りの人とワイワイトークして、小学校5年生に伝わるような表現してみた。

☆条文 33. 遊びおよびレクリエーションの重要性に関する意識の欠如:

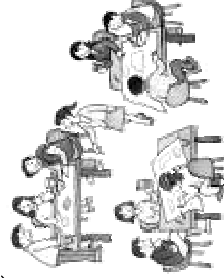
大人が考えている遊びって“まちがいが”じゃない?
騒ぐ、汚す、走り回るって怒られるけど、そういうことこそ楽しいんだよ!
ルールのあるスポーツだけじゃやなんだか窮屈だなー

☆条文 41. 成績に関する圧力:

いつ遊ぶの? 今でしょ!



プレイパークでドラム缶風呂にはいる子どもたち



☆条文 37. 子どもたちが公共空間を利用することへの抵抗 (4コマ漫画で):

- コマ①公民館や体育館に行くとき・・・「保護者を連れてきなさい、使用料金がかかります」
- コマ②公園に行くとき・・・「ボール遊びは禁止です。うるさいです」
- コマ③ショッピングモールに行き、たくさんの友だちでたむろっていると・・・「何をしているのかしら?と通報される」
- コマ④「ぼくらはほしい、どこ行きやいの!」

お知らせ
ジェネラルコメントNo.17全文をご希望の方は事務所までお知らせください。データをお送りします。

☆条文 40. 自然に対するアクセスの欠

如:

山や川や田んぼに連れて行ってくれる大人がいるとうれしい。いろんな遊びを思いつくし、アツという間に時間がたつよ。
都会に住んでいると、車や電車に乗って遠くに行かなくてはならないから残念!
行ける子と行けない子がいないよう、もっとみんなにチャンスがあるといいな!



共感でつながる

寄付をしたい 支援者

共感できる！
いいね！
応援したい！
一緒に夢を実現しよう！

寄付を集めたい 実行者

わかりやすい説明
なぜ するの？
なにを するの？
やると どうなるの？

「病氣と向き合う子どもに笑顔の贈り物」事業を実現するために

共感でつながる寄付活動にチャレンジします！

今年度、子ども劇場千葉県センターは、長期入院している子どもたちと、子どもに付き添う家族に、プロのパフォーマーによる訪問公演を3回実施します。その経費を「寄付活動」によって生み出し実現しようと考えました。こうした高額の寄付を募るのは初めての事です。さあ大変！！ 寄付集めはそう簡単じゃない！ 戦略が必要！ 動かなくちゃね！ あの手この手の知恵と方法を出し合い、寄付集めがスタートしました。
寄付を募るキーワードは「共感」。そして「フットワーク」と「ちょっとした勇氣」

寄付目標 648,000円
千葉のWA地域づくり基金 事業指定
2-D 病氣と向き合う子どもが笑顔になる贈り物事業

寄付文化を千葉県にも根付かせていきたい！
地域活動をしている市民を市民が支える

地域社会には、政治や行政だけでは解決できないこともたくさんあります。それらは、市民が持ちうる力を出し合って克服していかねばなりません。まさに、市民が市民を支えるということです。地域づくりの活動は、どこにどんな問題があるのか、自分たちでできることを気づかせてくれます。なかなか行動までできないことも、寄付で応援をすることもできます。思いを形にすることで、心に響き合い、地域を元気にしていきます。そんな寄付文化を千葉県の中に根付かせていきたいのです。しかし、人の心を動かすのは、難しいです。子ども劇場千葉県センターでは、公益財団法人 ちばのWA！地域づくり基金」といっしょに寄付活動にチャレンジし、理解者・応援者を拡げていきます。

READYFOR? (7月7日) 画面



長期入院の子どもたちが笑顔になる贈り物をしたい！ by/吉川亮

入院中の苦しさを忘れて、一時でも笑顔になれるよう、千葉県こども病院へプロのクラウンショーや楽しい遊びのワークショップを届けます。

達成率	達成金額	終了まで
72%	216,000円	30日



はじめてのチャレンジ READYFOR?

日本初のクラウドファンディングとして2011年にスタートし、現在では国内最大のクラウドファンディングサイトです。各アドレスにアクセスし、知人・友人に拡げてください。

●プロジェクトページ⇒画面がすぐに出ます

<https://readyfor.jp/projects/egaonogift>

ぜひ開いてみてください。寄付金額や達成率 終了日までの日にちが書いてあります。

●子ども劇場千葉県センターfacebook

<https://www.facebook.com/kidchiba>

●子ども劇場千葉県センターツイッター

<https://twitter.com/egaonopresent>

●READYFOR? ツイッター

https://twitter.com/ready_for

●READYFOR? フェイスブック

<https://www.facebook.com/readyfor>



新たな人・層へ拡げるために

「病氣と向き合う子どもが笑顔になる贈り物事業」を応援するためにフリマ参加

日時：8月24日(日) 10:00~16:00
会場：千葉銀座商店街
「いい街ちばフリーマーケット」 雨天中止

各市・地域で開かれるバザーやフリマにも積極的に参加します。

カフェでおべりしながら手づくりしましょ！

「病氣と向き合う子どもに笑顔の贈り物」事業を応援する

Quilt & Knit Cafe
キルト & ニットカフェ

お茶をしながら ゆっくりのんびり 手ごしらしましょ！！

パッチワークキルト
ハワイアンキルト

日時：9月予定
キルト2回連続
11月予定
あみもの2回連続

場所：未定
費用：有料の予定
募集人数：1回5人(大人)

☆ Web上でリアルな旬情報を発信し拡げます。
☆ ダイレクトメール、Eメール、知人にお手紙を出して事業の支援をお願いします。
☆ 募集チラシを県内に配布します。

共感をつなぐ情報発信

「病氣と向き合う子どもに笑顔の贈り物」事業を応援するバスツアー

多古町旬の味産直センター
『BRA ぶらしのみまつり』へ行こう！

日時：11月8日(土) 8:30 出発予定
募集人数：45人
参加費：1人5,000円
出発場所：八千代市役所予定

多古町旬の味産直センターの生産者の家の軒先でたくさん種類の郷土料理を食べたり、陶芸や工芸に触れたり、お土産の野菜農産物を買うこともできます。バスの中でいっぱいおしゃべりをして、一日楽しみましょ。参加費の一部は「千葉のWA地域づくり基金」への寄付になります。



館山戦跡見学・平和学習ツアー

日時：9月11日(木)
募集人数：45人(大型バス)
参加費：6,000円(ツアーガイド料 昼食代 見学料含む)
出発：千葉駅NTT前 8:00

館山海軍航空隊地下壕跡などの戦争遺跡の保存と活用にとりくむNPO法人安房戦跡フォーラムさんのガイドで、戦跡見学とスライドによる座学を組み合わせ、房総の歴史をもっと知ることを中心にしたツアーです。

千葉駅NTT前 8:00→館山戦跡見学 10:00~11:40→波奈総本店でランチ 12:00~13:00→道の駅ローズマリー公園 14:00~15:00→千葉駅NTT前 17:00
参加費の一部は「千葉のWA地域づくり基金」への寄付になります。



ちばのWA地域づくり基金

お友達や知人をお誘いください。詳細は子ども劇場千葉県センターへ

READYFOR?のミッション

インターネットを通して夢をもつ人を、その夢を自分の夢だと思ってくれる人たちへ繋げ、輪を広げ、夢を実現させていく。

■6月27日スタートしました。8月6日までの40日間。

■インターネットで、クレジット寄付。

■千葉県こども病院の子どもたちへ、プロのパフォーマーによる公演と、地域のひととのふれあいワークショップをプレゼント。

■目標30万円が集まらないと不成立。事業もできません。

■寄付額に応じて、サンキューレター、報告書、手作りグッズ、チャリティ公演へご招待、病院の公演への参加等、より事業を知ってもらうチャンスをプレゼント。

◆何の準備もせずに行ってもきつと徒労に終わることが多いはず。こんな良い事をやっていきます。だから寄付を「は全く通じない。寄付集めはそう簡単でないけれど、支援しようという人と出会ったことで勇氣をもらえる。

◆浦安市で、日頃おつきあいのあるコロッケ屋さんに寄った。よく聞いてくれて、事業に賛同してくれた。すぐにfacebookにメッセージをくれ、しかも、寄付分プラスの設定でなく、いつも値段で売って、売り上げに關係なく寄付をいただけることになった。新聞代くらいならいいだろうって。ありがたい！

◆昨年のお礼方々炭火焼のお店へ。中は超満員の人気店です。忙しいそんな時間に...。引き下がるか！悩んだ末、お客さんとして食べてから頼んだ方がいいと判断し焼肉とビールを注文。繁盛するわけがわかった。おいしい！いつ切り出そうかと、そわそわしてしまっただけの思い切ってお金を払う時に、店長さんお願いしますと勇氣をもって頼む。現れた店長さんは昨年のことをしっかりと覚えてくれていて今年もいいですよと笑顔で快諾してくれた。

◆薄暗くなって電車に乗って幕張まで行く。昨年支援してくれたお店に行ったら。ラッキーなことにも意識のある担当者がいて話もスムーズだった。他のお店を紹介してもった。やっぱり地域のことは地域の人が良く知っている。

◆老舗の洋食屋さんへ飛び込んだ。貢献したい気持ちはあるけれど、寄付を入れた値段にするなら、その分安く提供したい、うちはお客さんに充分いんなサービスをしているからこれ以上は無理です。」と断られる。それが本音だろうと改めて感じる。

◆昨年協力してくれたカフェへ。快く今年の協力をいただきホッとします。9月からのので、冷たいものより温かいものがいいかな」と気を使ってくれる。この一言を聞いた途端、緊張感が軽くなった感じがした。

カンパイヤリティイ
参加店募集の訪問
実施期間9月1日~11月30日





今、若者の調査研究でTV出演・注目される は・な・し

原田曜平さん (博報堂グランドデザイン若者研究所リーダー)

■今の若者たち

ブランド離れ、お酒離れ、車離れ、海外離れ、草食男子、女子会、自宅でケータイ、薄れる「見栄」など、若者に関するキーワードがメディアを賑わしている。しかし、実態が分からないと考えている企業や大人たち。

■近頃の若者の変化要因

◆不景気が前提で生きてきた戦後最初の日本人だから
バブル崩壊後に生まれ、バブル期の記憶がない若者たちは、「放っておくと自分の生活レベルが落ちてしまう」という感覚で生きていて、上の世代の人間とは決定的に異なる。その結果、今の若者は、「未来への不安感」と「超安定志向」に陥っている。

◆ケータイの普及と一緒に育ってきた初めての日本人だから
幼い頃から若者がケータイを持ち、メアド交換や SNS でつながることで、若者たちの人間関係数が拡大し、つながり過ぎている。

■その結果の今の若者

過剰な気遣い…KY (「空気が読めない」若者言葉) に代表されるように、好きな人でも嫌いな人でもつながるケータイ社会におけるその場に合わせ、空気を読まなくてはいけないと思ひ、場を乱さないというお作法 (同調志向) のこと。

監視社会…ケータイによる人間関係数が増えたことで、出る杭を打ったり、陰口、噂話、デマ等々が多いという意味。

既視感…氾濫する口コミ情報により、体験したこともないのに体験した気になったり、見てもないのに見たような気になり、視野や行動範囲が狭くなり行動力や好奇心が削がれてしまう状態のこと。

若者たちの間で「現代版村社会」が生まれている。そして若者たちは、長引く不景気とケータイ化により、上の世代が若者だった頃に比べると、縮こまった「スモールライフ」を送るようになっていく。

■若者たちをつかむ7つのツボ

若者たちの満足度が高くなっているという様々なデータが注目を浴びている。この謎の解明を、マーケティングの観点から若者たちの特徴を分析してみる。

- ①「不況だからの」節約志向ではない：景気に左右されない
- ②「のに」消費：高いものを自慢するのではなく、自分のセンスを自慢する
- ③「長くつき合える」を訴求せよ！：長く持つことを大切にする
- ④「マザコン」増殖中！：母親を大切にする
- ⑤「土着民族」増殖中！：地元や最寄駅を大切にする
- ⑥憧れ<「共感・一体感」：憧れより共感を大切にする
- ⑦「ハレ未満、ケ以上」：遠出よりも近場を大切にする

近頃の若者たちは、将来不安がある中でも、彼らなりの過ごし方を開発し、現状に満足していることが垣間見える。

◆共通する特徴は EXIL の音楽が好き、女子は安奈美恵や浜崎あゆみにあこがれ、パチンコ・バイクが好き、売れるタバコは「セブンスター」。幼なじみの友だちと毎日のように集まりケータイが必要なく、スマホが難しい。半径 5 キロ圏で暮らし、地元が好き。軽のミニバンに乗り、土日はイオンとコストコのはしご。イオンに行けば何でもできる『夢の国』。ドンキホーテ、ディズニーランドが大好き。IT リテラシーが高くなく、テレビ好き、マス広告が効く。置き換え可能な郷土愛で本物の地元愛ではない。

■全体のまとめ

今の若者たちの「スモールライフ」とは、必ずしも「小さい生活」というネガティブな意味ではなく、「コストを抑え、効率的で、身の丈に合った、持続可能な、血縁や地縁や知縁を大切にしたい、憧れではなく、共感や一体感に重きをおいた生活」という見方もできるのではないかと。経済が成熟すると「さとり世代」が増え、経済の成熟病ともいえる。どううまく付き合っていくか！

(「さとり世代(1983年~1994年)とヤンキー経済」と題して 子ども劇場首都圏第15年度全体講演会より レポート/大森智恵子)

2014 年度チャイルドライン支援センター通常総会 (6月7日開催) では、存在の周知とさらなる充実を目指し、〈中期目標〉に基づいた事業計画が承認されました。〈中期目標〉とチャイルドライン千葉の取り組みを紹介します。

1. 子どもが必要としているヘルプラインとして機能する

チャイルドラインでは 聴き切る ことが子どもの SOS への最大のヘルプであるとしています。千葉においても 聴き切る ことに徹して、子どもをエンパワーしていきます。

2. いつでもつながる電話をめざす

千葉では 2013 年 10 月より市川キーステーションを開設し、2 回線、10 時間 (月) 増を実現しています。

3. 電話以外のツールを模索する

子どもたちのコミュニケーションツールが多様化している今、電話だけで子どもの声を聴けるかが議論の中で挙げられました。今後の課題として、全国の実施団体と話し合っていきます。

4. すべての子どもが知っている状態を目指す

全国統一フリーダイヤルを開始して 5 年余り、まだまだ子どもたちへの周知は不十分です。今年度は千葉県内の小学生を対象にアドカードを配布します。今後も計画的に配布をしていきます。

5. 子どもの参加を進める

6. 社会活動としてのアドヴォカシーを促進する
千葉には子どもの社会参画の場として 10 代~20 代で構成されたヤンググループがともに電話を受けています。また、子どもの声を社会発信し、子どもに関わる人たちや団体、機関との連携もすすめていきます。

資金や設備、受け手ボランティアの継続など課題はありますが、「知ってるよ」「カード持ってるよ」と、子どもたちに支持される心の居場所になれるよう、中期目標のもと、活動をすすめていきます。

傾聴の文化を広げる講座を始めました

人の話をきくことに注目したプログラム。知識や技術を詰め込むものではありません。様々なワークを通じて「傾聴とは何か」「人の話をきく上で何が大切なのか」を、体験し感じることを大切にしています。

プログラム内容：4 つのワークとミニ講座からできています。①イメージの違いを知る ②ききかたで変わる話しやすさ ③気持ちに注目して聴く ④「聴くこと」体験 ⑤聴くミニ講座

時間：約 3 時間 または、2 時間時間で 2 回開催
対象人数：15 名~30 名 養育者 子育て支援者
講師 (ファシリテーター)：2 名
経費：有料

コミュニケーションづくりの学習会、研修会等にご活用ください。詳しい内容は千葉県センターまでお問い合わせください。

子どものチカラが発揮できるように、NPOではたらく人 大人も元気で楽しい活動ができるように



(特) 千葉中央おやこ劇場 事務局長 大塚るい

入会して12年。これまでたくさん人形劇やお芝居をみたり、キャンプや遊びの活動に参加しましたが、忘れがたい体験は、小1と年少だった二人の娘と初めて参加した2泊3日のおやこキャンプです。クタクタ、ヘトヘト、もう来年はムリ！と思っていたのは私だけ。ひと晩寝たらケロッと復活し「来年も行こうね」と宝探しでゲットした宝物を大事にしている子どもたちを目の当たりにして、子どもたちの持つ力・エネルギーのすごさにビックリしました。

我が子に限らず「子ども」はすごいチカラを持っているのに、日常生活の中ではやれない・やらない・やらせていない。だからわざわざ、それを発揮させる機会・環境を創るのは、大人の仕事なのではないか？子どもたちにはカラダを動かす体験をたくさんしてほしいと思っています。

素晴らしく大がかりなお芝居を年に1回観るよりも、良いも悪いも含めてたくさん作品を見せたほうがいいのかよ、と先輩に言われたことがあります。

劇団の方は「観る方の想像力にゆだねる」という言い方をします。私と子どもと、●さんと▲君と、同じものを観ても違う感想を持つことは珍しくないので、感想を聞くと自分では気づかないところが発見できて、これがまた楽しい体験でもあります。どうして子どもたちには鑑賞体験が必要なのか、時々悩みますが「想像力を膨らませる体験、心を動かす体験が必要だから」ではないかと思っています。

子どもはどんどん大きくなりますね！色々な場面で自分のすごいチカラを発揮できたり、相手の気持ちを想像することができるような人になってほしいと願い、日々活動しています。自分の子どもだけでなく、孫の世代のために働いている方々（千葉県センターの方々を含む）の背中を追いかけ、後に続く方々と手を携えて、子どもたちのためだけでなく大人たちが元気で楽しい活動になるように、努力していきたいです。

生まれてきてくれてありがとう

私からのメッセージ



(社) 千葉県助産師会 習志野・八千代・鎌ヶ谷地区部会 会長 鶴岡 利江子

私は、助産師会の仲間達と幼稚園や小・中学校、PTA 講演会等で「生まれてきてくれてありがとう」という参加型の講座や「生と性の健康講座」を行っています。いのちの誕生に寄りそう専門職の立場からお伝えしたいことがあるのです。

『人のいのちの始まりは、0.12mmの受精卵。たった1つの細胞から始まりました。休みなく細胞分裂を繰り返し、約280日間で身長50cm・体重3kg程までに成長して生まれてきます。驚くべき成長率です。そして、出産では、赤ちゃん・生む側共に命がけで頑張ります。手術で生まれる時もあるのです。生まれてくるのは、当たり前ではないすごいこと。ですから、ご自分に自信と誇りを持っていただきたいのです。「命がけで生まれてきたいのち」「命がけで生んでくれた人がいるいのち」に、いらないいのちは、1つありません。だから、自分で自分のいのちをなくしてほしくない。

人のいのちをとってもいけない。いじめも同じ、

心のいのちが痛んでしまうから。お誕生日は、命がけで頑張った記念日。今も、毎日頑張っているご自分を褒める日にして下さい。』と。

赤ちゃんの心音・産声・赤ちゃん人形等の教材と共に、このようなメッセージをお届けするようになって10年が過ぎました。お伝えしたいと思う気持ちだけでは、続けることはできません。子ども達が子ども達を取り巻く環境（地域）ごと皆で育っていただけますようにと、子ども劇場・有志の方々・PTA・学校・地域の核である公民館の協力等々、私たちの活動を支えて下さる方々の大きな力のお陰様です。私という小さな力が、地域の中で子ども達と共に人として育ち合う機会を頂けた事は、本当に幸せで感謝の気持ちでいっぱいです。「生んでくれてありがとうって言いたくなった」「死ぬまで命を大切にします」子ども達の感想からも元気をもらいながら、応援下さる皆様と共に頑張っています。

第10回子育て応援メッセ

わくわく子どもフェスティバルinそでがうら～おいでよ！あそびの森へ！～



主催：特定非営利活動法人 子どもるーぶ袖ヶ浦
日にち・会場：2014年6月29日（日）袖ヶ浦市民会館

参加者 650人、参加団体 47団体、スタッフ 146人

今年 NPO 法人認証 10周年を迎えた子どもるーぶ袖ヶ浦は、これまで9回開催してきた「子育て応援メッセ」を、母親支援の場づくりから、子どもたちの豊かな文化・芸術体験の場づくりへと、今回から目指す視点を移した。袖ヶ浦市協働事業提案制度に手を挙げ、なかなか独自で取り組めなかった「ロボの音楽座」公演を地域の様々な団体と連携して実施し、子どもたちがたっぷり遊べる一日となったことに挑戦した。

「子育て応援メッセ」から「子どもの体験ひろば」へ

子どもるーぶ袖ヶ浦では、子どもや子育てに関する情報発信をすることを大きな目的としてメッセに取り組んできた。しかし、10年続けるうち様々な子育て支援の環境が整ってきたと感じ、これからは子どもと芸術との出会いや、豊かな体験の場が必要であり、それを実現していきたいと、方向転換に舵をきった今回のメッセであった。

市内の多くの団体とつながって開催

当日企画に関わった団体はガールスカウトやレクリエーション協会、NPO、地元で活動している芸術家、おもちゃ病院など 22 団体、子育て支援団体紹介コーナーの参加団体は 25 団体、行政の関係課は 4 課で、もちろん市民会館も協働団体となっていた。

色違いの T シャツを着た大勢のスタッフがイキイキと対応していたのが印象的。市の子育てネットワーク会議のメンバーとしてつながっている団体や、4年前の「ちば県人形劇まつり in そでがうら」で知り合った団体など、子育てや遊び、文化活動に関わる様々な団体からも、多くのスタッフの協力があった。

会場は森の中 今日是一日たくさん遊んでね

会場となった袖ヶ浦市民会館の大ホール、ホワイエは、森のイメージで飾られ、「森の中で遊んでね！」というメッセージが伝わってくる。乳幼児を連れた親子、小学生の親子連れ、お父さんの姿もたくさん。全館に体験ブースがあり、子どもたちが思い思いにアクセサリーづくり、キャンドル制作、読み聞かせなどどこも子どもたちで満員。アクセサリーづくり

は大人気で、羊毛フェルトでどんどんどづくりをくりそれをネットレスにしている体験。「すてきだね！」と話しかけると恥ずかしそうに、でも得意げにネットレスをみせてくれた。子どもたちの満足そうな顔は嬉しさいっぱい。

乳幼児を連れた若いお父さん、お母さんは「ネットで知り来てみました。お金がかからず、一日遊べてうれしい」と話してくれた。子育て支援課が行ったお父さんのための「怒鳴らない子育て講座」には、子どもを連れた若いお父さんが、子どもをあやしながら真剣に講師の話を聞いていた。

コンサートに思いを込めて

最後のプログラムは、1年がかりで準備してきた大ホールでのロボの音楽座「森のオト」公演。幕開けは事前のワークショップで作ったという「ブンパカパパ」という手作り楽器で子どもたちや、お父さんお母さんたちの演奏が始まった。コンサート中も一緒に歌ったりできる参加型だったので子どもたちはノリノリ。

終演後のホワイエは人があふれ、一緒に「ブンパカパパ」を吹いたり、記念写真を撮ったりと楽しかった一日を締めくくるエンディングとなった。

最後に理事長の田中直子さんが「日ごろからお互いの活動を紹介したり、広報の協力をしたりしてつながり、地域の中で子どもたちの豊かな成長を願うメッセを実施してきました。今回は、なんとしてもこのコンサートを届けたかった。これからも協力してくれる団体を掘り起こし継続していきたい」と話ってくれた。（取材・文責：綿貫）

編集後記

新三役体制になってはじめての総会が無事終了しました。新理事長のはつらつさ、新事務局長の生真面目さが前面に出て思わず笑いを誘い、会員の皆様から期待を込めた拍手もいただき、会場全体の雰囲気是和らぎました。一方、集団的自衛権の行使容認を有権者に問うこともなく決めてしまったことに胸がざわざわし、居ても立っても居られぬ気持ちになっているのは私だけでしょうか。子どもや若者の未来や、すべての人権が踏みにじられることのないように……。 (綿貫)